

ドネシアとマラソン

第 11 期 OB 立松 宗磨

◆ドネシア

皆さん、2018 年の M-1 をご覧になりましたでしょうか。M-1 の内容・結果よりその後の騒動の方が話題になってしまっておりますが、ご覧になられた方なら「ドネシア」が理解できるはずですよ。そうです、インドネシアのことです（ここからは全てインドネシアに統一します）。そのインドネシアに 2019 年 1 月 5 日より 2020 年 3 月まで行って参ります。かねてより希望していた語学研修が叶い、入社以来担当していたベトナム事業を離れ、2019 年 1～12 月は国立インドネシア大学（日本における東大の位置づけです）に社費留学して主にインドネシア語を学びます。2020 年 1～3 月は現地の事業会社（三菱自動車の販売会社）にて実務研修生として働きます。会社から日本勤務時より多い給料を頂きながら、大学生として生活できることは、何ともありがたいことです。今回頂くこの投資に対するリターンを将来しっかりと出せるよう、語学研修に励んで参りたいと思います（来年はインドネシア生活についてのエッセイを書かねばですね）。

ちなみに私が所属している自動車事業本部からは毎年 1 人がインドネシア語学研修に派遣されているのですが、過去派遣された先輩方は 1 人を除いて皆首席で卒業しております。これが何とも言えないプレッシャーではありますが、私も漏れなく首席で卒業できるように頑張りたいと思います。

また、語学研修中はインドネシアにどっぷりと浸かるということで、ホームステイをします。約 9 年ぶりの共同生活、且つインドネシア人との共同生活ということで様々なトラブルやカルチャーギャップがあるかとは思いますが、何事も経験として楽しんでいきたいと思っております。

加えて、学生ということで社会人に比べて自由な時間が多いので、勉強以外の面でも様々な経験をしたいと思っております。インドネシア人コミュニティに参加しよく交流すること、多くの地方都市へ旅行すること、マラソンをレベルアップすることが、ざっくりと今考えていることです。

そんなこんなでインドネシアマスターになる予定ですので、月並みですが、来年インドネシアにいらっしゃる機会がございましたら是非ご連絡頂ければと思います。少なくとも通訳の役割は果たせるはずですよ。ジャカルタであれば車も出せますよ。バリ島を始めとする地方にも飛んでいきますよ。

◆マラソン

約 2 年前に絶対太りたくないと思いジョギングを始めたのですが、その後何を血迷ったか目標がないと頑張れないということでハーフマラソンにエントリー、その後また何を血迷ったかハーフマラソン走ったことだし次はフルマラソンということでフルマラソンにエントリー、その後また何を血迷ったかタイ

ムを上げたいからということで走り続け、気づいたら昨年11月の初フルマラソンから約1年間で7回もフルマラソンに出場しております。特に直近4ヶ月は平日夜に一人でインターバルトレーニングをして吐きそうになったり、高地トレーニングができるジムに通ったりしてキツイトレーニングに励んだ結果、タイムは初マラソンの3時間52分17秒から3時間23分14秒まで約30分も短縮できました。このタイムがどの程度のレベルか正直想像もつかないかと思いますが、もし気になる方がいらっしゃれば、試しにジムのトレッドミルを時速12.5kmで走ってみて下さい。その速度で42.195km走ると3時間23分で完走できます。



大阪マラソンに出場した著者。京大 iPS 細胞の山中教授と並走し、30km 過ぎでの引き離しに成功！



会社の上司（本部長・部長等）・先輩・後輩とさいたま国際マラソンに出場（著者は前列右から3人目）

ここまでくるとやれるとこまでやってやろうという気になり、サブ3（3時間切り）を達成したいと思っております。インドネシアは一年中暑く、マラソンシーズンである秋冬がないのが何とも辛いところですが、暑くてもそれなりのタイムで走れる身体・スタミナ作りと、サブ3に向けて必須となる短距離のスピード強化に励みたいと思います。何故ここまでフルマラソンにハマってしまったのか自分でもよくわかりませんが、強いと言うなら自己ベストを更新した時の喜びを味わうためでしょうか。周りからは「ストイックすぎる」、「ドM」といったコメントももらいますが、全て誉め言葉と受け止めております。笑



ホームステイ先と専用の社用車
（もちろん三菱車）

ちなみにマラソンは上司との関わりでも意外と役立っており、先日は本部長や部長らと共にフルマラソンに出場しました。マラソン自体は自分との戦いですが、上司・同僚・部下と出場してレースのあれこれを語り合うのも非常に楽しく、日本に帰ってきた際にはまた誰かと出たいなと思いました。マラソンに興味がある方がもしいらっしゃれば、（2020年になりますが）まずは是非一緒に皇居ランでもしましょう。



出国前、小野ゼミ忘年会に参加した著者
（著者は左から2人目）